

風土記の丘の花だより⁸²

今、そしてこれから見られる植物(2021年4月17日)

山のカスミザクラもほとんど散り果てました。最後にサトザクラの仲間の花が散るとサクラの季節が終わります。

そのサクラに負けず劣らず、たくさんの美しい花が咲き出しました。



左の花はシソ科のコバノタツナミソウです。旧小早川家の庭や万葉植物園などに咲いています。漢字で書くと「小葉の立波草」です。花の形が波頭が重なっているように見えるので「立波」という名前が付けられました。安藤塚などには「小葉」でない「タツナミソウ」もそろそろ咲き始めることでしょう。葉が大きいだけでなく、花も大きめです。



左の小さな花はカマツカの花です。バラ科の木です。漢字で書くと「鎌柄」、材が硬くてしっかりしているので、鎌の柄に使ったことによる命名です。このように、植物の名前には私たちの生活に関連あるものが少なくありません。とても小さな花ですが、たくさんかたまつて咲くので遠くからでもよく見えます。葉は2, 3cmほどで周りにギザギザがあります。触ると少し硬めです。



金網や他の木に巻き付いたミツバアケビに花が咲いています。アケビの花は白くてよく目立ちますが、これは焦げ茶色みたいな地味な色で余り目立ちません。アケビと同じように雄花と雌花があって、形も大きさも全く違うのですぐに区別できます。葉はアケビが5枚なのに対して、これは3枚です。それに周りには粗いギザギザがあり、花がなくても区別は簡単です。



久しぶりにシダを紹介します。これはヒロハハナヤスリというシダです。それほど珍しくないのかもしれませんが、風土記の丘でこの度初めて確認できたので紹介します。旧柳川家の南側にかなりの株数が生えています。普通の葉は一枚で、細長く伸びているものは孢子を出すための葉で孢子葉(ほうしよう)といいます。シダは色鮮やかな花こそ咲きませんが興味深いですね。 松下